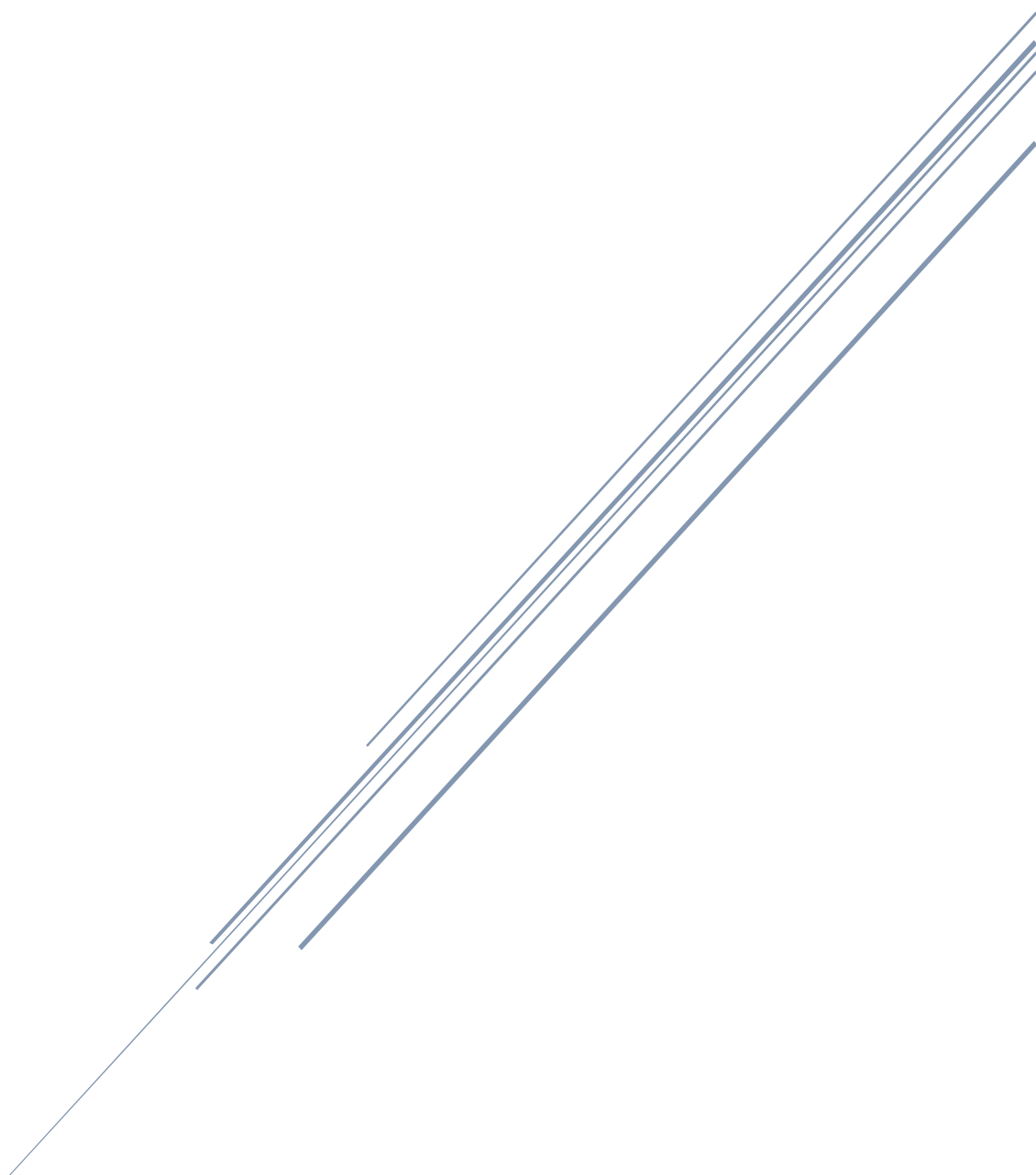


神戸学院大学授業アンケート 報告書

2026 年度前期



神戸学院大学
全学教育推進グループ

1. 神戸学院大学授業アンケートについて

本学では、教員の授業方法の改善および教育力の向上を目的として、授業アンケートを実施しています。

授業アンケートの集計結果は、各学部等へ返却するとともに、アセスメント・プラン（授業科目レベル）の評価・改善に活用しています。

アセスメント・プランについては、以下をご参照ください。

<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/assessment.html>

また、授業アンケートの集計結果については、各学部等の結果を公表しています。

2. 授業アンケートの実施方法と内容

2.1 実施授業科目および対象者

実施授業科目

各学部等が選定した科目（実施科目数：1,415 科目）

対象者

上記科目を履修している学生（延べ人数：77,042 名）

2.2 実施日程

総合リハビリテーション学部、栄養学部、薬学部

2026 年 5 月 29 日（金）9 時 00 分 ～ 2026 年 8 月 6 日（木）23 時 59 分

法学部、経済学部、経営学部、人文学部、心理学部、現代社会学部、グローバル・コミュニケーション学部、共通教育センター、スポーツサイエンス・ユニット、心理学研究科

2026 年 7 月 3 日（金）9 時 00 分 ～ 2026 年 8 月 6 日（木）23 時 59 分

2.3 実施方法

実施期間中における対象授業科目の授業時間内に、原則として実施します。

学生はインターネットを介して Web システムにアクセスし、回答を行います。

2.4 設問の概要

全学部・全科目共通の設問 10 問（選択式・4 件法）および自由記述欄で構成しています。

なお、経営学部、栄養学部および薬学部では、独自の設問を設定しています。

2.5 教員への授業アンケート結果の提供方法

教員は Web システムにアクセスし、担当科目の授業アンケート結果を確認します。

2.6 学生へのフィードバック

各教員は、科目ごとの授業アンケート結果を確認した上で、授業アンケート終了後に Web システムのコメント欄へアンケート結果に対するコメントを入力します。

学生は Web システムを通じて、自身が回答した科目の集計結果および教員コメントを閲覧することができます。

3. 授業アンケートの結果

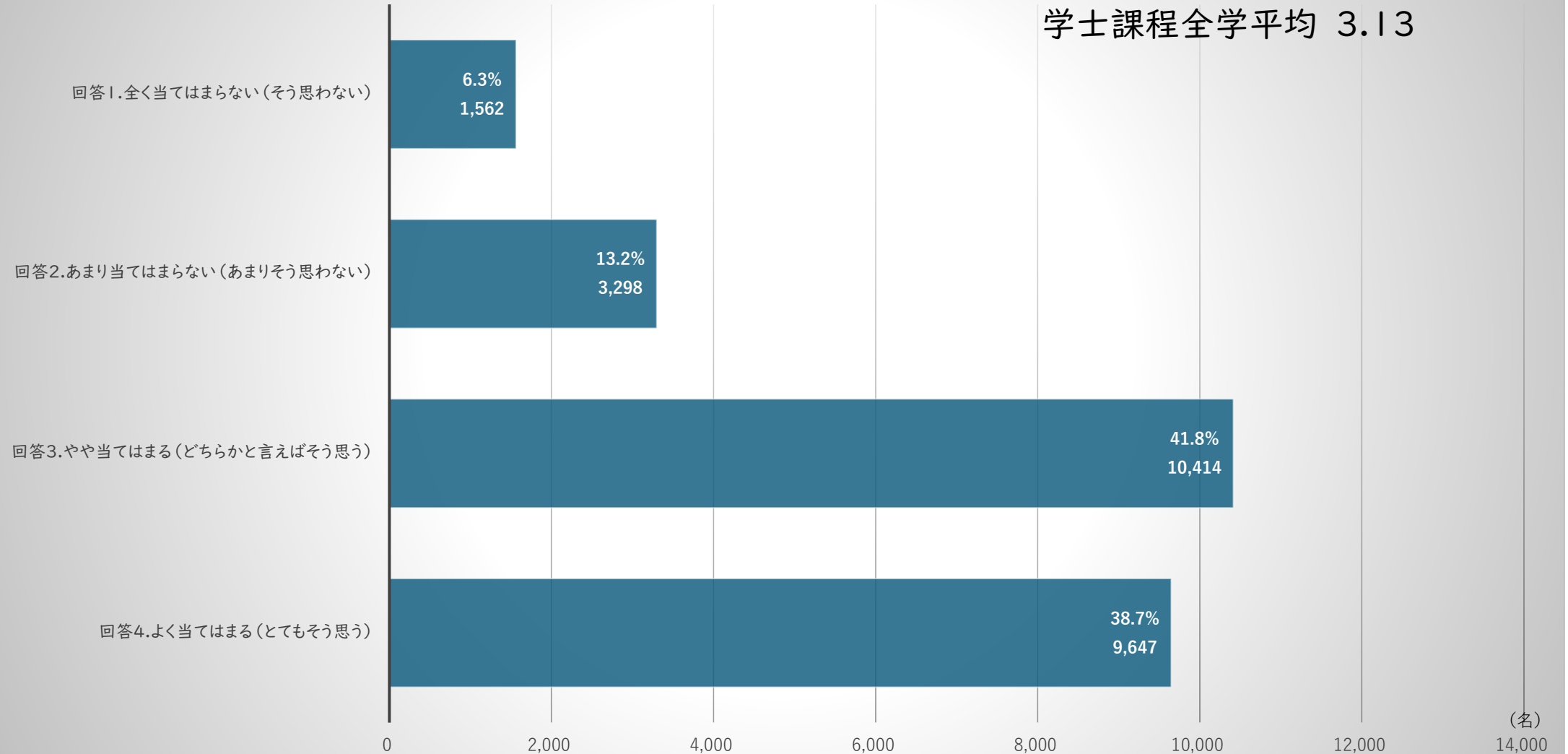
別紙「2026 年度前期授業アンケート（学士課程集計）」参照。

回答者数 24,923 名（回答率 32.35%）

2026年度前期授業アンケート (学士課程集計)

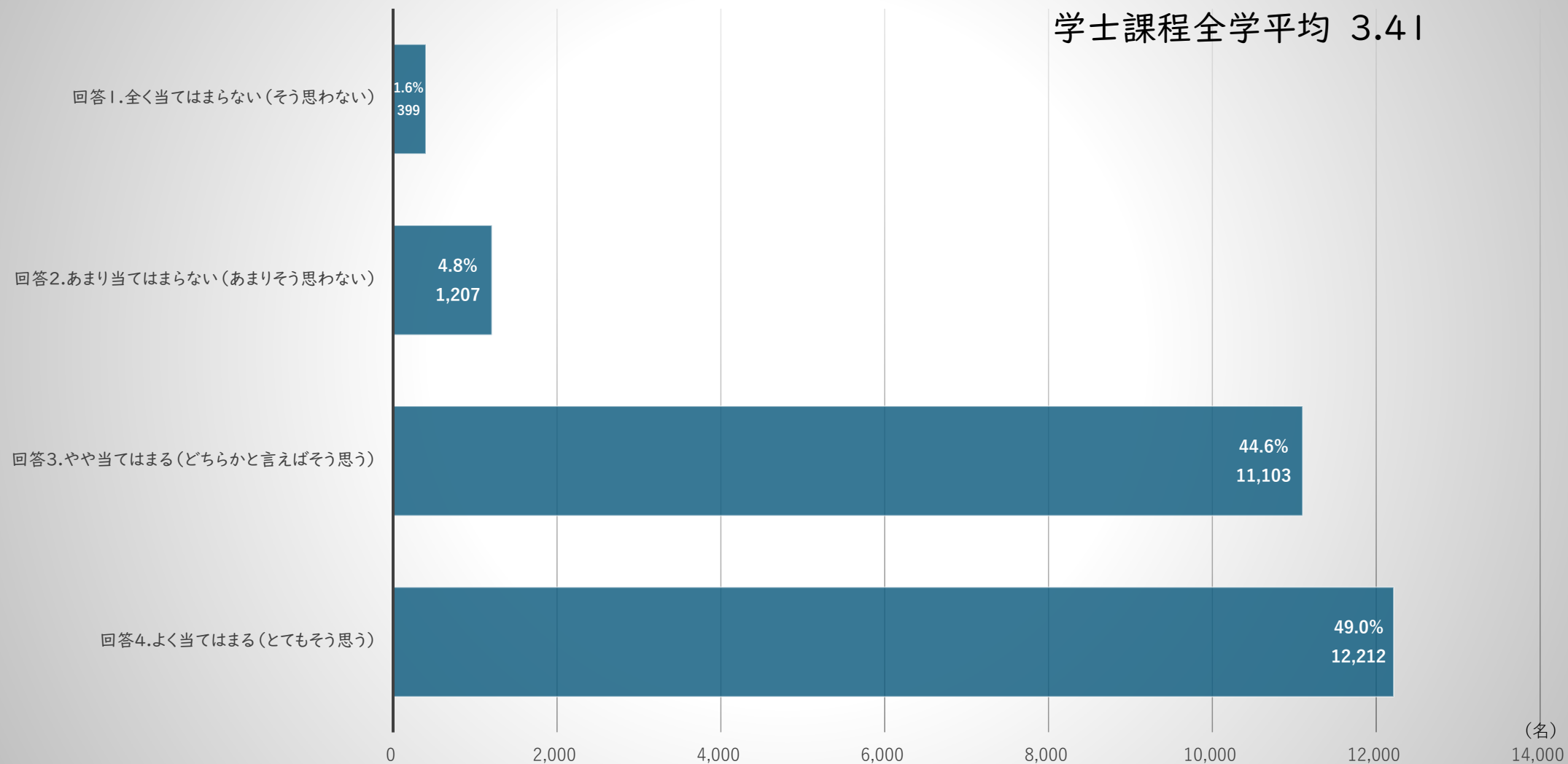
設問1 あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか

学士課程全学平均 3.13



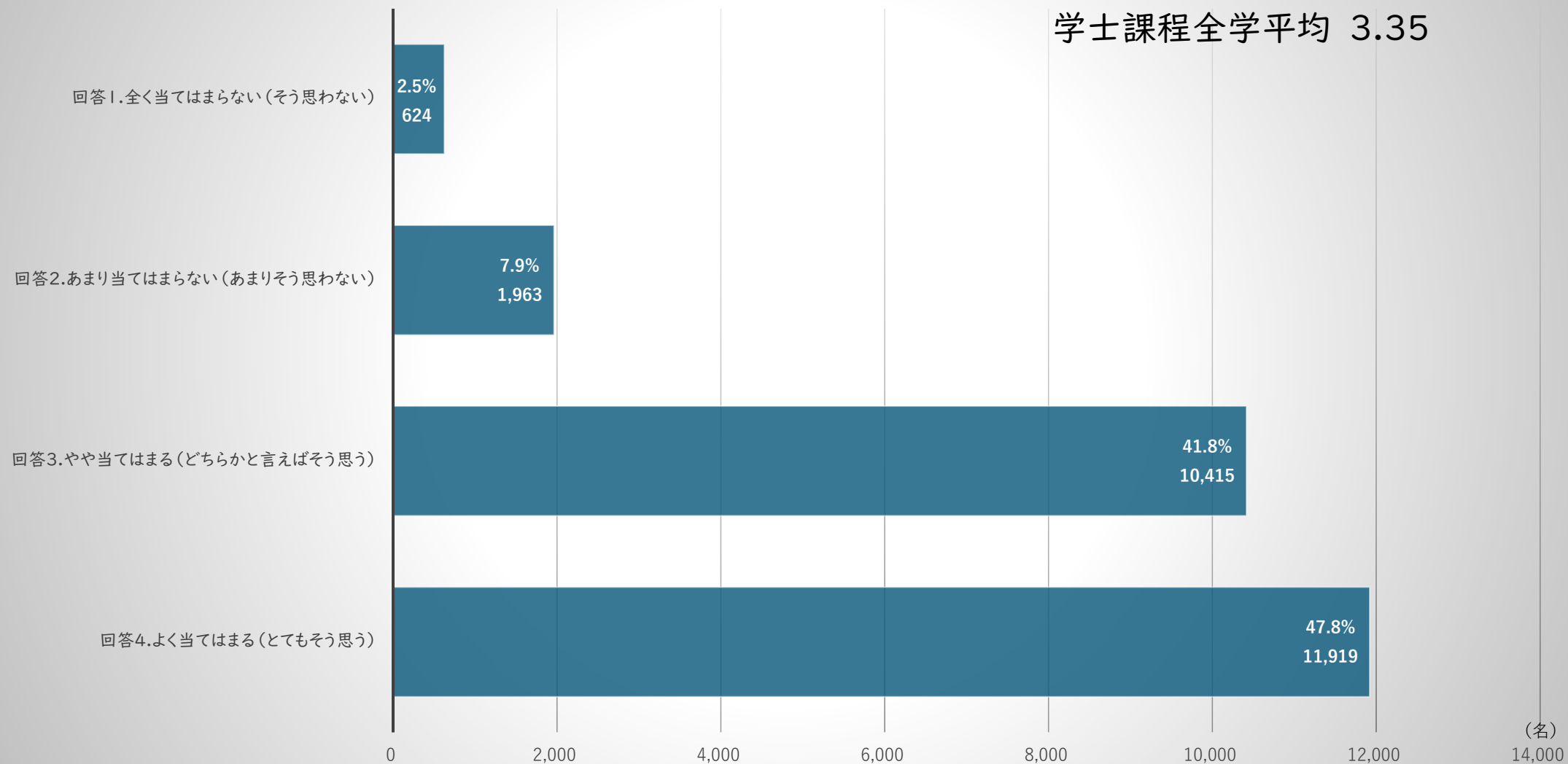
設問2 あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか

学士課程全学平均 3.41



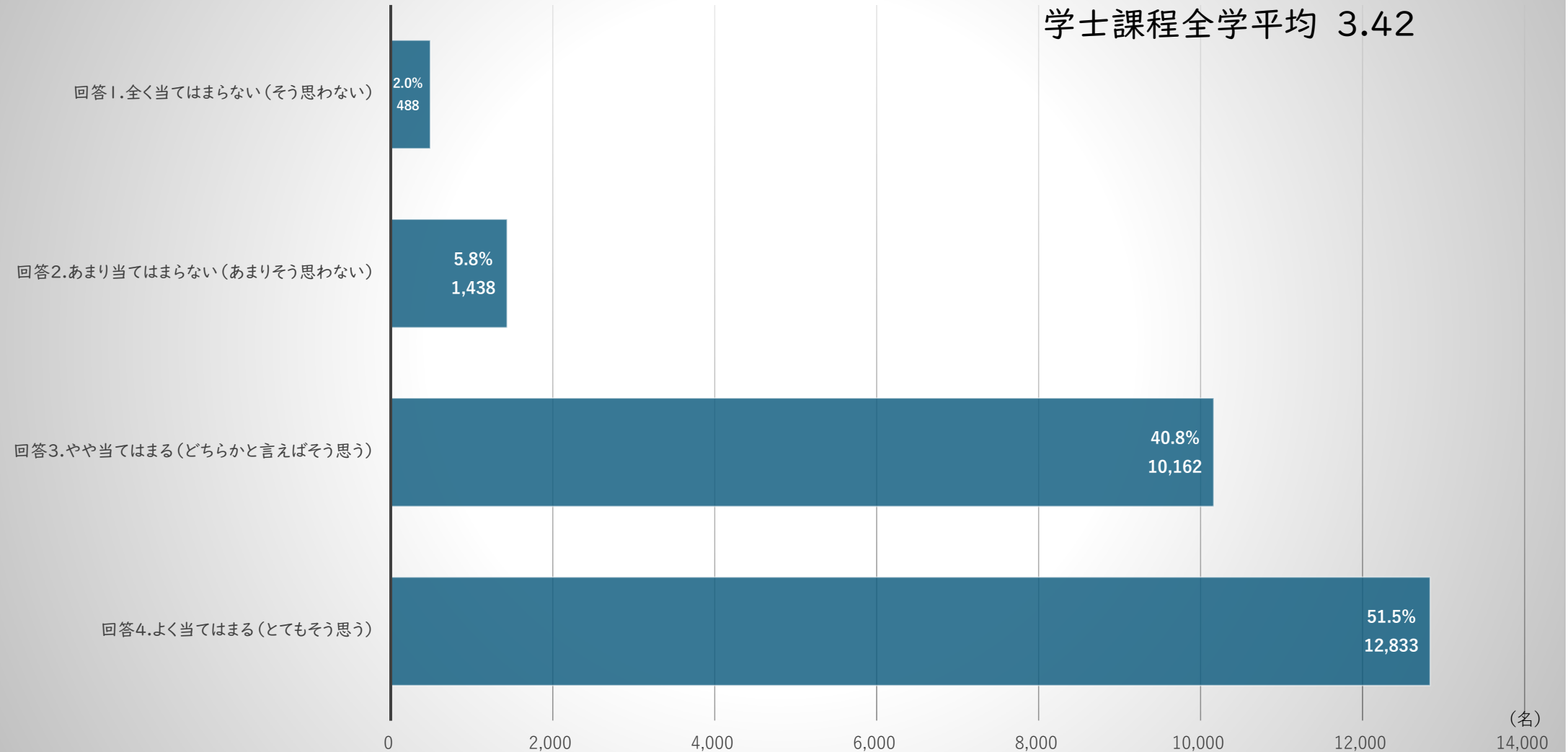
設問3 あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか

学士課程全学平均 3.35



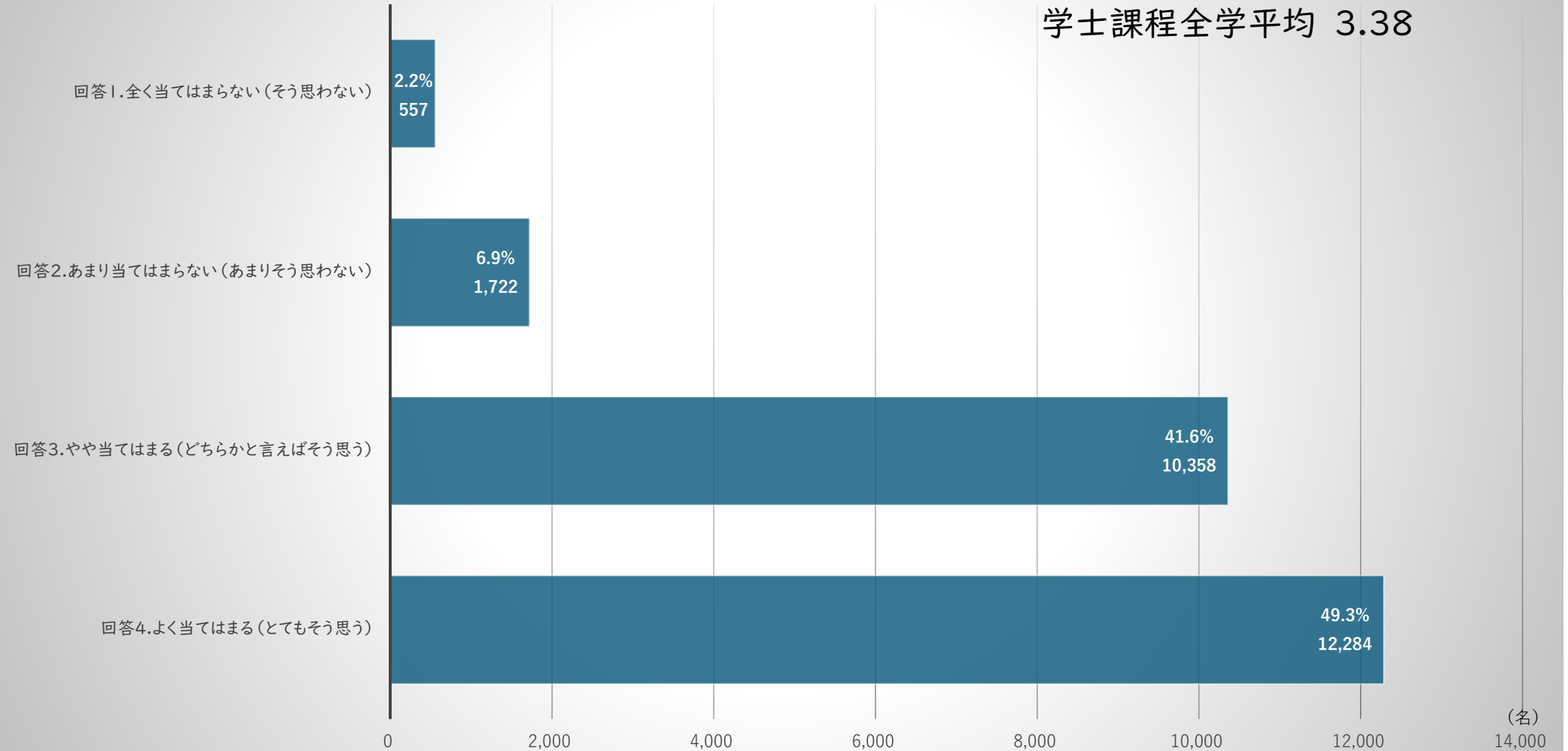
設問4 あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか

学士課程全学平均 3.42



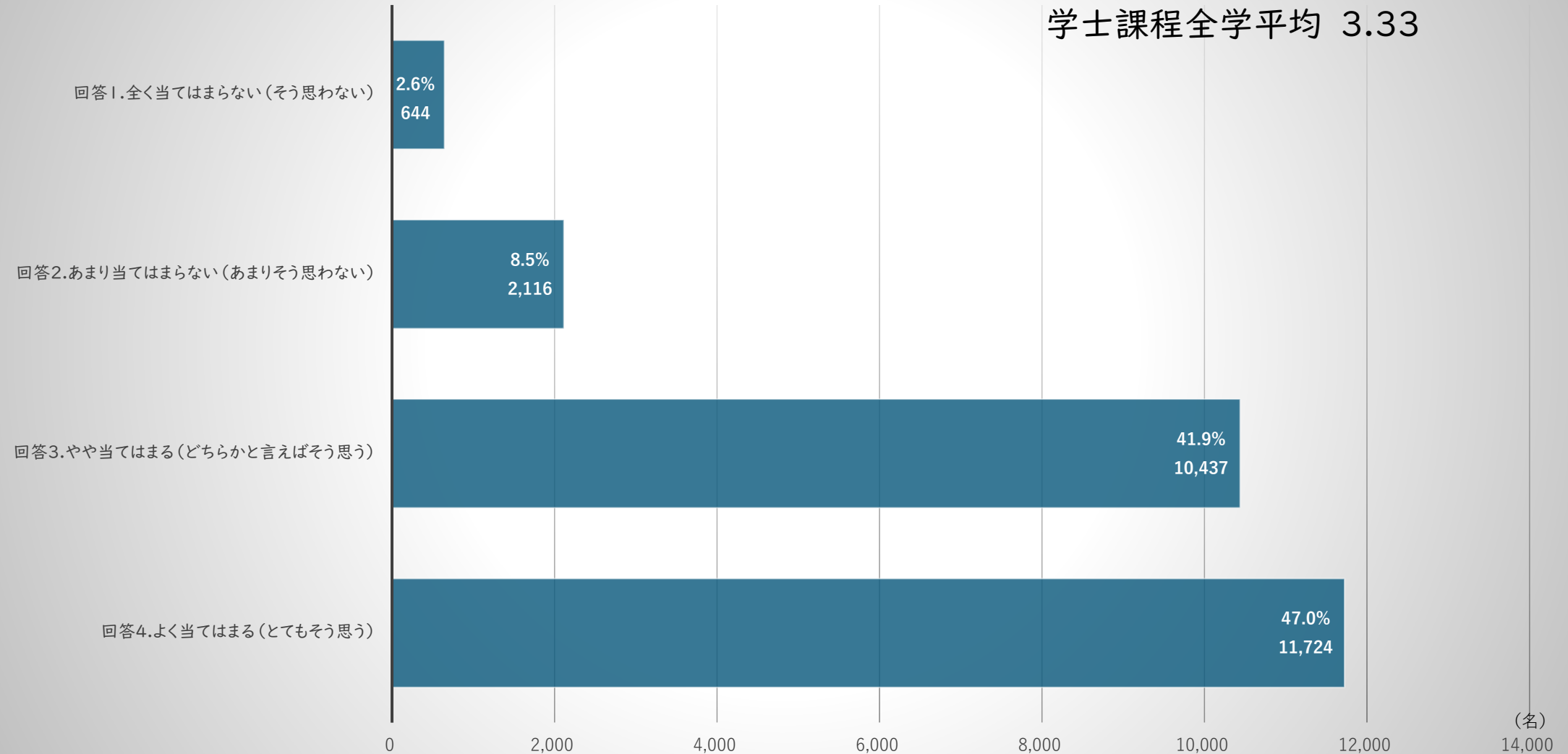
設問5 あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をされていると感じましたか

学士課程全学平均 3.38



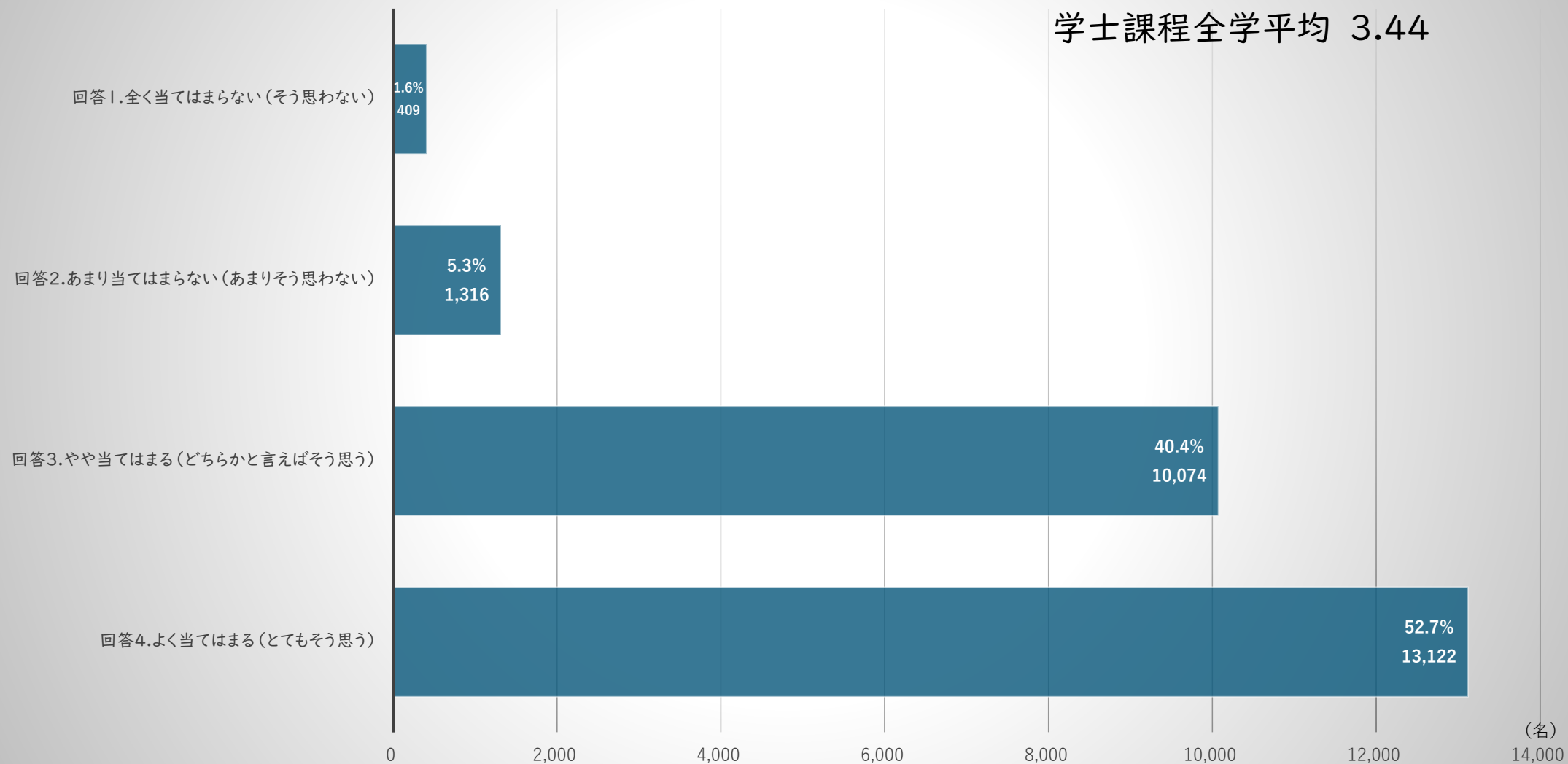
設問6 あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか

学士課程全学平均 3.33



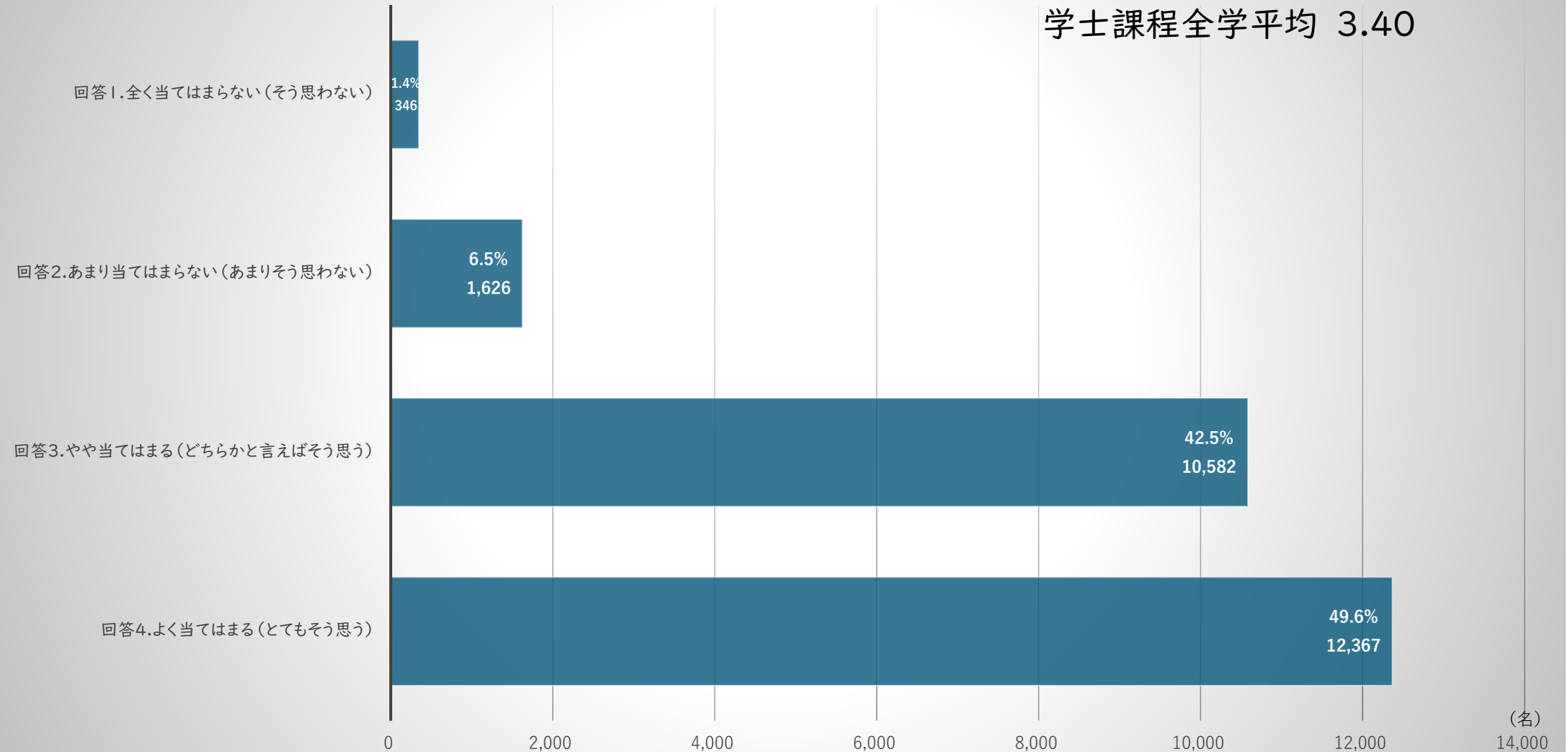
設問7 あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか

学士課程全学平均 3.44



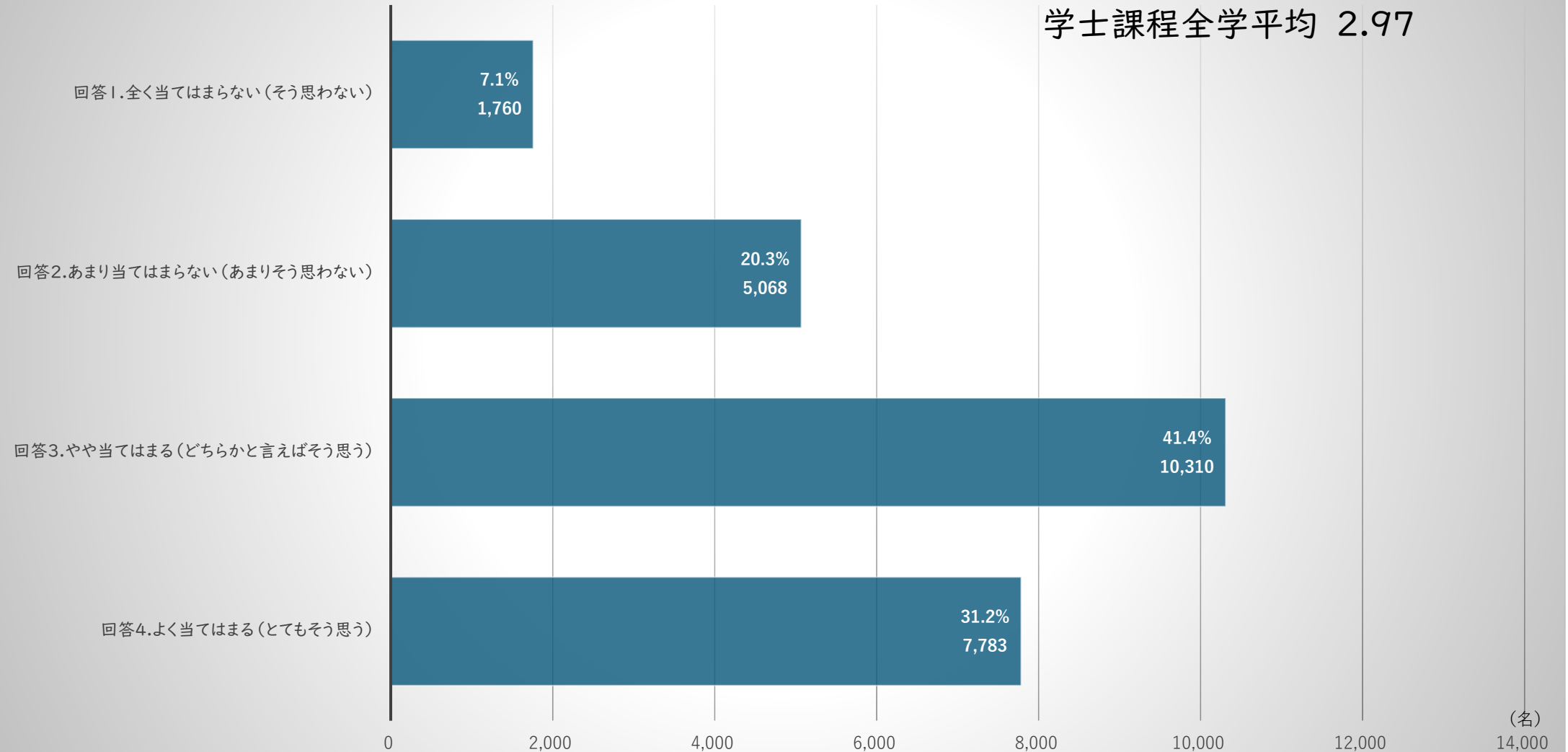
設問8 あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか

学士課程全学平均 3.40



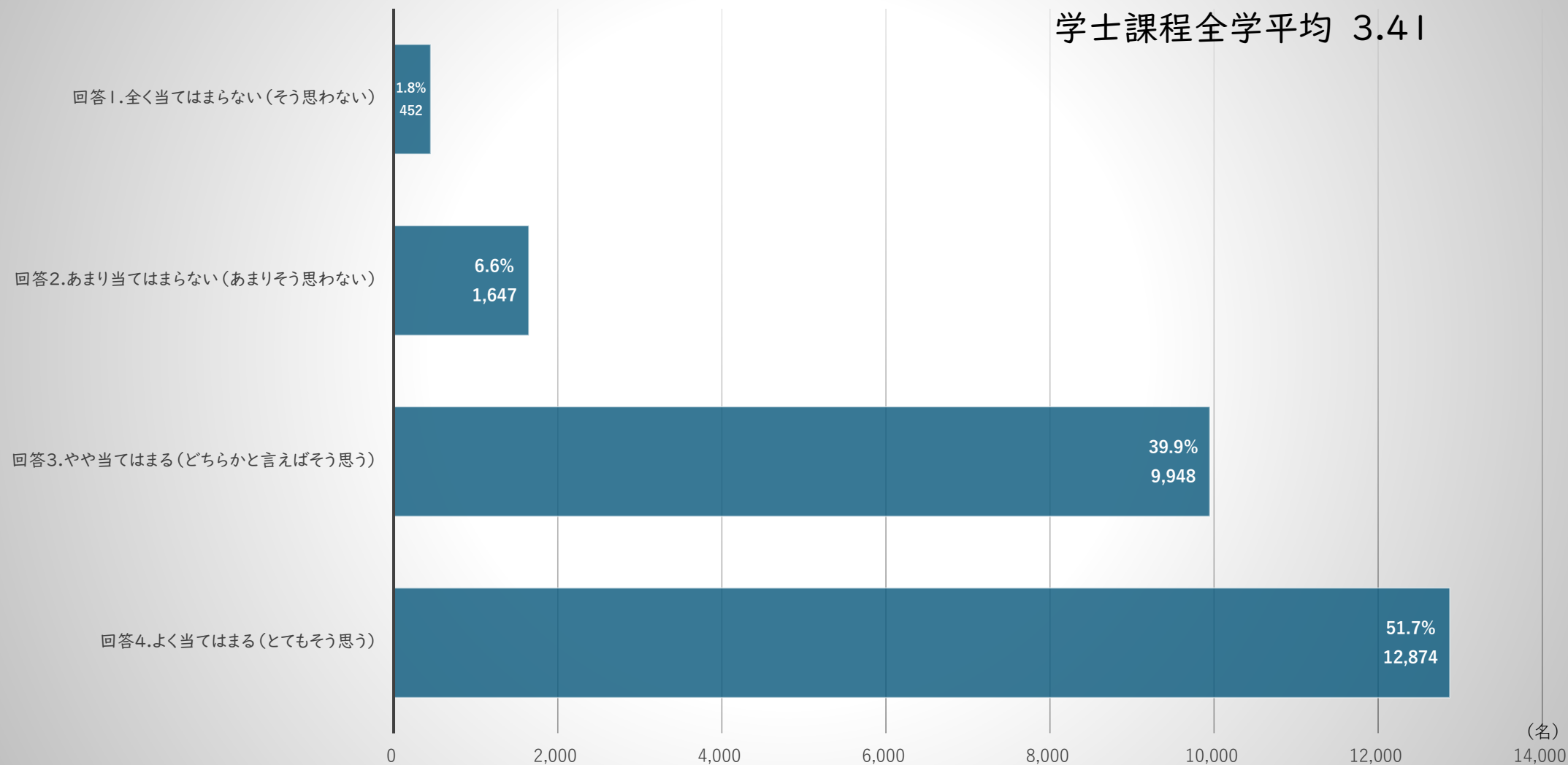
設問9 あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか

学士課程全学平均 2.97



設問10 あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか

学士課程全学平均 3.41



2026 年度前期授業アンケート報告書

法学部

【実施期間】2026 年 7 月 3 日～2026 年 8 月 6 日

【実施科目数】53 科目

【回答率】23.2%

【結果の概要・分析】

法学部における 2026年度前期授業アンケートの実施状況について、実施科目数は 53 科目、当該実施科目における履修者数はのべ 5,535 名、うち回答者数は1,282名となっており、回答率は 2025 後期の 8.3%から 23.2%に上昇した。今回、法学部ではアンケート対象授業時間内における回答に加えて、1年次から4年次の演習授業においてすべての教員に授業アンケートの時間を確保していただくことで、回答率の改善を実現した。しかしながらこの数字は全学部平均値の 32.35%と比較すると依然として低い水準であり、アンケート実施方法についてさらなる改善が望まれる。

アンケートの自由記述欄における意見では、講義の面白さや授業の工夫についての肯定的意見が多数ある一方で、進行が速い、説明が難しい、小テストの出題意図が不明瞭である、黒板やプロジェクターの字が見づらい等の意見や、レジュメのアップロードが授業直前なので印刷して持参することができない等、改善を求める声も複数出されていた。また今回は出席・成績基準に関する不満や試験における不正行為の指摘も複数見られた。学生の真摯かつ適正な意見に対しては、しっかりと耳を傾けて、学部としてさらなる改善に努めていかなければならない。具体的にはまず、各教員がアンケート結果を熟読し、特に批判的な意見や感想が記されていた場合には各自で真摯に受け止め、検討のうえ、授業改善に取り組むことが必要である。第二に、必修の複数クラス開講科目については担当教員間での評価基準の平準化などの取り組みが必要であると思われる。第三に、定期試験科目が多い法学部においては、試験中の不正行為防止をさらに徹底すること、また不正行為を誘発しないような作問上の工夫が求められる。

【授業改善への活用方法】

上記の取り組みの結果、アンケート回答率は全学部平均に近いところまで上昇した。しかしながら依然として低い水準にあり、回答率改善のためのさらなる取り組みが必要である。具体的には、今回実施したゼミ内時間における授業アンケートの実施をさらに周知徹底させることが必要である。また授業アンケートを実施することの意義を十分に説明した上で学生への協力を求めていくことが望ましい。具体的には、アンケート実施の際に教員が読み上げる趣旨文を用意する等、各教員のアナウンスの標準化を促す方策の導入を検討したい。またゼミにおけるアンケート実施のリマインドを学部メーリングリストを通じて複数回発信することを検討している。

各科目のアンケート結果および自由記述欄の意見については、今回、授業名や教員名が特定されないかたちですべて教授会資料として共有し、各教員から授業改善についての意見を求めた。現行のシステムでは各教員が自分の担当科目についてのみ閲覧できる仕組みであるため、これまで他科目の状況を把握する機会が乏しかったが、このようにアンケート結果を法学部スタッフ全体で共有することにより、ピアレビュー的効果を通じて授業改善がなされることが期待される。

2026 年度前期授業アンケート報告書

経済学部

【実施期間】2026 年 7 月 3 日～2026 年 8 月 6 日

【実施科目数】29科目

【回答率】27.0%

【結果の概要・分析】

■ アンケートの対象科目について

授業アンケート対象科目は、ディプロマ・ポリシーもしくはカリキュラムチェックに適した主要科目（例：演習・実習を除いた必修科目など）のみで 1 学部等につき 30%程度の科目数を目安、専任教員は 1 年間のうち 1 度は授業アンケートの対象となるように選定との要件から、29 科目を選定した。対象の科目数が他学部と比較すると少ないことについては、経済学部の基幹・リテラシー・コース科目のほとんどが「4 単位もの」であるためでもある。

■ 回収率の状況について

2026 年度前期授業アンケートの回収率は 27.0%、実施科目履修者（延べ人数）3,562 人、回答者数 961 人であった。

表1は、2022 年度からの授業アンケートへの回収率の状況をまとめたものである。回答率は昨年度の同期比で、4.2 ポイントの減少となった。前期授業アンケートについては 2023 年度対前年度比で 4.1 ポイント減少したものの、以降は順調に上昇していた。授業アンケートは毎年度の取り組みであり、経済学部長室より 2026 年 7 月 15 日と 19 日の 2 回にわたって学部教員にリマインド・メールを送っている。各科目で適切に実施されているものと考えるが、全学教育推進機構に問い合わせたところ科目ごとの回答率に差があり、60%を超える科目がある一方、10%台の科目も多いことがわかった。回収率の高い科目の担当教員より、複数回の授業で実施していると情報を得たため、今後はできるだけ複数回での実施を依頼したいと考える。

表1 授業アンケート回収状況（経済学部）

	前期			後期		
	回答者数	履修登録者数	回答率	回答者数	履修登録者数	回答率
2022 年度	954	3,191	29.9	388	1,775	21.9
2023 年度	846	3,280	25.8	737	2,279	32.3
2024 年度	994	3,588	27.7	405	2,244	18.0
2025 年度	1,077	3,455	31.2	574	2,360	24.3
2026 年度	961	3,562	27.0			

■ 設問への回答の結果と分析

表2は、設問への回答の結果を示したものである。10 の設問について「学士課程全学平均」（大学全体の平均）と「経済学部の平均」を見ると、設問1「あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか」のみ「経済学部の平均」が高かった。設問 2「あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか」が同じで、その他は若干低い数値であった。

表 2 設問への回答の結果(2026 年度前期・経済学部)

設問	経済	全学
1 あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか	3.23	3.13
2 あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか	3.41	3.41
3 あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか	3.31	3.35
4 あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか	3.32	3.42
5 あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じましたか	3.33	3.38
6 あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか	3.30	3.33
7 あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか	3.36	3.44
8 あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか	3.30	3.40
9 あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか	2.96	2.97
10 あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか	3.30	3.41

「自由記述」を見ると、設問 3「あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか」に該当する、教員の授業の内容やスライドの見やすさ、話し方(ゆっくり)、具体例を上げての解説を評価する声が多かった。また設問 6「あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか」についても、小テストなどで学生の理解度を測る工夫をしていることを評価する記述があり、全般に否定的な意見はわずかであった。設問 4「あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか」ではスマホや私語禁止などのルールが評価されていた。一方、「教室の温度の高さ」を指摘する記述が複数あったが、これについては教員の責任のみに限るものではないと思われる。

設問 7「あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか」、設問 8「あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか」、設問 10「あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか」についても、専門的学習への意欲の高まりや、経済学部での学びのつながりの理解、経済や金融政策の全体像がつかめたという意見が見られた。学生からの良い評価については、総じて丁寧な言葉で記述されている。

以上から、回答率にも関することとして、教員に伝えたいことがある学生が主に授業アンケートに回答し、特に意見等がない学生はあまり回答していないのではないかと推測される。後期授業アンケートでは学部から学生に授業アンケートの開始をメール配信するなど、学生側へのアプローチも強化したいと考える。

【授業改善への活用方法】

2026 年 9 月 7 日の教授会にて、前期授業アンケート結果を回覧・報告した。

自由記述から特に授業改善の参考になるとと思われる例を抽出し、後期中に学部内で共有する。

2026 年度前期授業アンケート報告書

経営学部

【実施期間】2026 年 7 月 3 日～2026 年 8 月 6 日

【実施科目数】59科目

【回答率】22.0%

【結果の概要・分析】

1. アンケートの実施結果

2026 年度前期の授業アンケートは、回答者負担を考慮し、実施科目数を 59 科目に削減したため、対象履修者数は 5,979 人となった。このうち1,313人から回答を得ることができ、回答率は22.0%となった。教授会等で担当教員に周知したほか、学生にも周知を行ったため、回答率はほぼ横ばいを保っている。

(最近のアンケートの実施状況)

	実施科目数	履修者数	回答者数	回答率
2026 年前期	59	5,979	1,313	22.0%
2025 年後期	121	8,448	1,778	21.0%
2025年前期	111	9,249	2,217	24.0%

2. 設問への回答の結果

各設問について「学士課程全学平均」（大学全体の平均）と「経営学部の平均」を比較すると、設問1「履修前にシラバスを読みましたか」は、経営学部の平均が大学全体の平均よりも高かったが、それ以外の設問では横ばいか若干下回っている。

設問	経営学部	全学
1.あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか	3.25	3.13
2.あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか	3.41	3.41
3.あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか	3.29	3.35
4.あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか	3.38	3.42
5.あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じましたか	3.30	3.38
6.あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか	3.20	3.33
7.あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか	3.33	3.44
8.あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか	3.29	3.40
9.あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか	2.80	2.97
10.あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか	3.28	3.41

3. 自由記述の内容

全体としては、「スライドの内容がわかりやすかった」「プリントがあって理解が深まった」「説明がわかりやすかった」「ニュースや雑談が面白かった」など前向きな評価が大半を占めている。また、「色々な企業の方のお話を聞けて良かった」「いろいろなAIの小話があったおかげでChatGPT以外のAIも使い分けられるようになった」などの声もある。小テストについては、振り返りに役立つとの前向きな意見がある一方、実施方法に批判的な意見もみられた。

【授業改善への活用方法】

- ・授業アンケート結果について、学生から寄せられた自由記述に基づき、好評だった授業での取り組み事例などを学部内で共有し、議論する。
- ・ICT 活用の事例、グループワーク等の授業運営方法、学習環境の整備のあり方などについて、教授会、学部内 FD で情報共有や意見交換を行い、授業改善に活用する。
- ・今後も、アンケートの実施を継続するとともに、対象科目を適宜見直して回答率の向上に注力していくこととする。

2026 年度前期授業アンケート報告書

人文学部

【実施期間】2026 年 7 月 3 日～2026 年 8 月 6 日

【実施科目数】66 科目

【回答率】26.1%

【結果の概要・分析】

人文学部の前期授業アンケートの回答者数はのべ 1,260 名、回答率は 26.1%であった。昨年度の回答率は 28.6%であり、減少しているため、授業担当者による働きかけなど、何らかの改善策を考える必要がある。設問 9 と 10 を除く設問について、全学平均を上回るか同じであり、おおむね良好な結果であったと評価できる。他方で、設問 4・6・10 については昨年度前期の結果を下回っており、改善の余地が多くあることが分かる。

設問ごとの結果は以下のとおりである。

設問 1:学部平均 3.39 で全学平均 3.13 を上回る。9%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答している。これらはいずれも前年度よりも良好になっており、人文学部の学生がシラバスを事前によく読んで講義を選択している傾向がさらに強まっている。

設問 2:学部平均 3.49 で全学平均 3.41 を上回る。「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しているのは 5%であり、設問 1 の結果を合わせると、多くの学生が人文学部の授業はシラバス通りに進められていると評価していることが分かる。

設問 3:学部平均 3.43 で全学平均 3.35 を上回る。「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しているのは 8%であり、多くの学生が、教員の説明が分かりやすいと評価している。

設問 4:学部平均 3.42 で全学平均と同じであるが、昨年よりも下回っている。また、「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しているのは 9%であり、全学平均の 7.8%よりも低い。学習環境が適切でなかったと考える学生が一定程度いたことが分かる。自由記述では私語を教員が放置していることや、教室の気温が暑いために集中できないことについて複数の指摘があり、その点が影響していると推測できる。

設問 5:学部平均 3.44 で全学平均 3.38 を上回る。「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しているのは 8%であり、設問 3 と合わせると人文学部教員の授業姿勢に対して学生がおおむね満足していることを示している。

設問 6:学部平均 3.34 で全学平均 3.33 をわずかに上回る。「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しているのは 10%であり、理解度の把握という点では教員の姿勢が学生に伝わるほどではないことが見て取れる。

設問 7:学部平均 3.55 で全学平均 3.44 を上回る。「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しているのは 4%であり、人文学部で新しい知見を得ることが出来ていると学生が実感していることが分かる。

設問 8:学部平均 3.42 で全学平均 3.40 をわずかに上回る。「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しているのは 8%であり、こちらも全学平均とほとんど変わらない。学生の積極性を引き出す授業の工夫が必要だと考えられる。

設問 9:学部平均 2.80 で全学平均 2.97 を下回る。「あまり当てはまらない」、「全く当てはま

らない」と回答しているのは 36%であり、予習や復習をあまり必要としないと感じている学生が人文学部において多いことが示唆されている。自由記述では小テストの効用を評価しているものが多数あり、そういった予習復習を促す工夫を全体として検討する必要があると考えられる。

設問 10: 学部平均 3.35 で全学平均 3.41 を下回る。「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しているのは 12%であり、人文学部における「役に立つ」ことの意味について学生と議論したりすることで意味のあるフィードバックができると考えられる。

自由記述欄: おおむねポジティブなコメントが多いが、改善要望が明確に書かれたコメントも複数目につく。ノートやメモを取る時間が短い、座席後方の私語を注意してほしい、出席カードに記入する時間が欲しいなど、教員にとってすぐに改善できるケースが多くみられた。

【授業改善への活用方法】

教員は個別に授業アンケートの結果を確認し、今後の授業改善に活用している。また、可能な場合はフィードバック(自由記述欄への返答)等を行っている。

2026 年度前期授業アンケート報告書

心理学部

【実施期間】2026 年 7 月 3 日～2026 年 8 月 6 日

【実施科目数】24 科目

【回答率】24.3%

【結果の概要・分析】

回答率は 24.3%と昨年度前期の回答率 31.8%を下回る結果となった。内容については、例年と同じく、授業の意義や満足度、望ましさに関する質問の回答について、肯定的な回答（「3. やや当てはまる（どちらかと言えばそう思う）」「4. よく当てはまる（とてもそう思う）」）であった。特に、設問 7「あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか」と設問 10「あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか」に対して、「3. どちらかといえばそう思う」「4. とてもそう思う」という回答が 100%近くになっており、授業内容について高い評価がなされていたと言える。

設問 9「あなたは、予習・復習と行った授業時間が学習を行いましたか」に対しては、66%の学生が「3. ややあてはまる」「4. よく当てはまる」と回答しており、これまでのアンケート結果と比べて改善が見られた。ただし、アンケート回答率の低さから、回答者が熱心な学生に偏っていたことも考えられる。

自由記述からは、小テスト、質問に対するフィードバック、体験型の内容、動画の使用など、授業に対する興味や理解を促進する教員の工夫に触れている者が多かった。一方で、私語や、授業資料の不備、出席の確認方法、マイクの音量などについては一定数要望があった。

【授業改善への活用方法】

全体の評価としては概ね良好であるが、よりよい授業運営のため、アンケート結果を FD 研修会等で共有し、各項目の改善点について検討する予定である。さらに、学生から寄せられた自由記述に基づき、好評だった授業での取り組み事例などを学部内で共有し、議論する予定である。

2026 年度前期授業アンケート報告書

現代社会学部

【実施期間】2026 年 7 月 3 日～2026 年 8 月 6 日

【実施科目数】50 科目

【回答率】23.4%

【結果の概要・分析】

現代社会学部では、前期セメスターに開講された 50 科目を対象に授業アンケートを実施した。昨年度前期と比べ対象科目が大幅に減少したのは、回答率向上のため各教員が 1 科目を選定することとしたためである。履修者 3,903 名のうち 912 名が回答し、回答率は 23.4%と昨年より約 2 ポイント上昇したものの、大学全体の回答率 32.35%を下回る結果となった。この要因として、アンケート実施期間中に教員への周知が徹底されていなかったことが一因と考えられる。

アンケートには 11 の設問があり、うち設問 1～10 は授業内容や進行に関する具体的な評価を問うものであった。これらの設問への回答傾向は、設問 9 を除き、「3. ややあてはまる」「4. よく当てはまる」の合計が全体の 8 割を超えた。特に設問 7「新しい知見や考え方を知ることができましたか」は 4 点満点中 3.45 と高く、授業内容に対する評価の高さがうかがえる。また設問 8「あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか」も 3.41 であり、教員による授業の工夫が学生の主体的な受講を促したことがうかがえる。

自由記述では、具体例の提示、グループワークの導入、わかりやすいスライド、オンデマンド資料の活用、学生へのフィードバックなど、教員の創意工夫を評価する声が多く寄せられた。一方で、私語のない静謐な授業環境を求める声、シラバスに記載された内容・方法と実際の授業内容が異なっていた点への指摘、学生に対する高圧的な態度への不満なども見受けられた。

【授業改善への活用方法】

- ・アンケート回答率の改善に向けて、特に非常勤講師への周知方法の見直しが必要である。アンケート期間中に再度実施を促す連絡を入れることを検討する。
- ・授業方法に対する肯定的な意見を分析し、インタラクティブな授業運営や柔軟な対応のためのツールの活用方法に関する研修の実施を検討する。
- ・ハラスメント研修において、学生に対して指導・指摘・注意する場面においてなぜ教員が威圧的になってしまうのか、また威圧的な態度が学生に与える影響について考える機会を設ける。

2026 年度前期授業アンケート報告書

グローバル・コミュニケーション学部

【実施期間】2026 年 7 月 3 日～2026 年 8 月 6 日

【実施科目数】38 科目

【回答率】61.3%

【結果の概要・分析】

グローバル・コミュニケーション学部

2026 年度前期の授業アンケート結果を分析すると、全体的に学生の授業に対する評価は引き続き非常に高い水準を維持している。多くの設問で「よく当てはまる」「やや当てはまる」の肯定的な回答が 90%以上を占めており、学生の授業に対する満足度は非常に高いことが伺える。

評価項目から

● シラバスの活用について

「シラバスを読んだ」と回答した学生（肯定評価：3.やや当てはまる 33% + 4.よく当てはまる 38%）は 71% であった。昨年度（75%）と比較してやや低下しており、他の設問で肯定的な回答が 9 割を超えている中では、引き続き改善の余地がある数値となっている。

● 授業内容の理解・シラバスの遵守について

92%の学生が「授業がシラバスに沿って進められた」と回答し（設問 2）、93%の学生が「教員の説明が分かりやすかった」と回答している（設問 3）。学生が高い理解度を維持できていることがわかる。

● 学習環境について

92%の学生が適切な学習環境（学習空間）が提供されていたと感じており（設問 4）、学生が学びに集中できる環境が整備されている。

● 教員の工夫・理解度の把握について

92%の学生が「教員が理解のための工夫をしている」と感じており（設問 5）、また 92%が「学生の理解度を把握しようと努めている」と感じている（設問 6）。教員の熱意や丁寧な対応が学生に伝わっている様子が伺える。

● 新しい知見の習得・学習意欲について

94%の学生が授業を通じて「新しい知見や考え方を知ることができた」と回答し（設問 7）、91%の学生が「積極的・意欲的に参加した」と回答している（設問 8）。

● 将来への有用性について

91%の学生が授業で学んだ内容は「将来役に立つことがあるかもしれない」と感じており（設問 10）、キャリア形成や実生活への貢献度も高い評価を得ている。

自由記述から

自由記述からは、以下のような点が高く評価されている。

● 実践的・アクティブな学び（ペアワーク、グループディスカッション、英語プレゼンテーション、発音練習など）

● 実体験や豆知識を交えた講義（教員自身の海外滞在経験、社会事情、具体的な企業例な

ど)

- 分かりやすい視覚資料や工夫（見やすいスライド・パワーポイント、動画の活用、具体例を用いた解説）
 - 丁寧な学生対応・雰囲気作り（一人ひとりへの丁寧な指導、質問への回答、フレンドリーで発言しやすい環境作り）
 - 多角的なトピック・外部講師の活用（ハラスメント対策、SNS、ビジネス日本語、専門分野の解説など）一方で、以下のような課題や改善要望も少数見られた。
 - 私語・マイク音量・授業マナー等の問題（大教室や一部授業における私語・遅刻・雑談への厳格な注意指導の要望）
 - ICT ツール・提出方法の配慮（LMS の課題締め切り設定、プレゼン動画の全体共有におけるプライバシー配慮）
 - 資料提示のタイミングや文字サイズ（初回からのスライド利用希望、文字サイズの拡大など）
- また、依然として「シラバスを読んだ」という回答は 71% に留まっている。授業の全体像や目標、評価基準を確実に伝え、学習効果を最大化するため、シラバスの重要性を改めて周知し、その活用を一層促進する必要がある。

【授業改善への活用方法】

授業アンケート結果を受け、学生から寄せられた自由記述に基づき、好評だった授業での取り組み事例や、授業の工夫に関する要望、運営上の改善点について学部内で共有し、議論を行った。学部内で提案された意見は以下の通りである。

1. 実践的・アクティブな学習機会の維持・拡充 ペアワークやグループディスカッション、プレゼンテーションなどのアクティブな学びの機会を継続しつつ、学生がより主体的に参加できるプロジェクトベースの実践的な学習をさらに推進する。
2. 多様な教材・映像・具体的体験談の継続的な活用 学生の知的好奇心を刺激するため、教員の実体験や最近の動画資料、見やすいスライド教材を積極的に取り入れ、理解度を高める視覚的・具体的な授業展開を維持する。
3. シラバス活用の促進と計画の周知 授業初回到シラバスの確認・重要性の説明を徹底し、学生が目標や計画を把握した上で主体的に学べるよう、定期的なシラバス確認を促す。また、授業の初日にシラバスの読み合わせを行い、学生と教員の互いの認識のすり合わせを行う。
4. 学習空間の環境整備と授業マナーの徹底 学生が集中して講義を聞き取れるよう、私語や遅刻に対する指導・注意を徹底し、全員が快適に学べる落ち着いた学習環境を提供する。グローバルな土壌で活躍できる人材を育成すべくマナーなどを徹底的に教え込む。
5. 双方向性と提出・運用面の配慮 理解度確認や質問対応など双方向のコミュニケーションを意識するとともに、LMS の締め切り設定や提出動画のプライバシー保護等、システム運用上の配慮・工夫を行い、学生の不利益にならないように努める。

以上

2026 年度前期授業アンケート報告書

総合リハビリテーション学部

【実施期間】2026 年 5 月 29 日～2026 年 8 月 6 日

【実施科目数】37 科目

【回答率】27.7%

【結果の概要・分析】

2026 年度前期授業アンケートは、2026 年 5 月 29 日（金）から 8 月 6 日（木）にかけて実施された。総合リハビリテーション学部では実施科目数 37 科目、履修者数 2,301 人に対し、回答者数は 638 人、回答率は 27.7%であった。全学合計の回答率 32.35%と比較すると、本学部の回答率はやや低い水準にとどまっている。

設問別にみると、相対的に評価が高かったのは、設問 7「新しい知見や考え方を得られたか」で、本アンケート中最も高い評価となった。授業を通じて新たな学びが得られたと感じている学生が多いことがうかがえる。次いで設問 10「将来役に立つと感じたか」は実務・国家試験・将来の臨床につながる内容として評価されており、設問 4「学習空間としてふさわしい環境の提供」も授業環境そのものへの評価の高さを示している。

一方、相対的に評価が低かったのは設問 9「予習・復習を行ったか」で、10 設問中最も低く、他の設問と比べて明確な差がある。授業外学習の定着が課題となっていることがわかる。設問 1「シラバスを読んだか」もシラバスの活用状況が他の項目に比べてやや低いことを示しており、設問 6「学生の理解度把握への努力」は授業内容の理解度そのものより、教員による理解度確認への評価がやや低めであった。

自由記述には多数の回答が寄せられた。肯定的な意見としては、要点を整理した資料の配布や図表を用いた説明が「わかりやすい」と高く評価されている点、福祉用具の体験や検査法の実演など実際に手を動かす授業内容への満足度が高い点、授業内での動画視聴が理解を助け想像力を働かせながら学べたという声が複数見られる点が挙げられる。また、説明の速度やハキハキとした話し方、学生に寄り添う姿勢への言及も多く、グループワークやペアワークなど能動的な学習形態を評価する声もある。授業前の予習テストが理解を助けたとする意見もあり、他科目への展開が期待できる好事例といえる。改善を求める意見としては、「出題しない」とされた内容が出題された、授業で扱われなかった範囲からの出題があったなど、試験範囲と授業内容の不一致を指摘する意見が見られる。また、授業で扱えなかった範囲の資料が Moodle 等で配布されず自主学習が難しかったとの意見、レジュメの書き込み量が多く見づらい、色分けの基準説明がないといった資料設計に関する要望もある。このほか、書き込む時間に対してスライドの進行が速く書き取りづらいという意見、周囲の私語で教員の説明が聞き取りにくいという指摘、一部授業で言葉が厳しく感じられたとの意見も寄せられている。

【授業改善への活用方法】

（1）授業外学習（予習・復習）の促進

設問 9 が学部内で最も低い評価となっていることから、優先的に取り組むべき課題である。自由記述では「予習テストがあったから理解が進んだ」との肯定的な意見も見られており、次のような具体策が考えられる。

- 各科目で Moodle 等を活用した小テスト・事前課題を導入し、予習を仕組み化する。
- 復習を促す振り返りシートや次回授業冒頭での小テストを取り入れる。

●シラバスに予習・復習に必要な学習内容・所要時間を具体的に明記し、設問Ⅰ（シラバス活用）の改善にもつなげる。

(2) 資料・教材設計の見直し

●授業資料は原則として事前に Moodle 等へアップロードし、試験範囲外の内容も含め自主学习可能な状態にする。

●レジュメの書き込み欄の大きさやスライド進行速度を、学生が記録できる分量・速度に調整する。

●色分け表示を用いる場合は、その基準を授業内で明示する。

(3) 試験範囲・評価方法の明確化

●シラバスおよび授業内アナウンスと、実際の出題範囲との整合性を科目担当者間で事前に確認する。

●「出題しない」と伝えた内容は出題しない運用を徹底し、範囲変更がある場合は速やかに周知する。

(4) アンケート回答率の向上

本学部の回答率(27.7%)は全学平均(32.35%)を下回っている。より多くの学生の意見を反映させるため、次のような対応が考えられる。

●授業内でアンケート回答の時間を確保する。

●アンケートの目的や結果の活用方法を学生に周知し、回答の意義を伝える。

2026 年度前期授業アンケート報告書

栄養学部

【実施期間】2026 年 5 月 29 日～2026 年 8 月 6 日 【実施科目数】92 科目 【回答率】58.0%
【結果の概要・分析】 昨年度後期に引き続き、一部のオムニバス科目や学外実習を除いた専任教員および非常勤講師が栄養学部で実施するすべての科目（92 科目）について授業アンケートを実施した。 実施方法は、昨年度同様に各講義・実習内にてアンケートを回答してもらう形式を採用した。具体的には、FD 委員が事前に準備した授業アンケートに関するパワーポイントスライドを、講義・実習内で提示し、5分間程度の時間を設けて授業アンケートに回答するという統一した方法で行った。アンケート結果は、実施科目履修者数（のべ人数）4,692 人のうち、2,722 人が回答し、回答率は 58.0%となった。前年度前期（66.4%）と比較すると回答率はやや低下したものの、前年度後期（55.7%）よりやや高く、今年度の全学平均（約 32.4%）に比べ高い水準を維持し、授業内での回答時間確保による取り組みが一定の効果を上げていると考えられる。 具体的なアンケート結果については、「あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方をすることはできましたか」（3.49ポイント）、「あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか」（3.46 ポイント）、「あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか」（3.52 ポイント）という学生の成長につながる設問項目において全額平均よりも高い評価を得た。また、多くの学生からの個別のコメントがあり、「説明が丁寧で分かりやすかった」、「小テストやグループワークがあり理解できた」、「わかりやすいグラフ、イラストや図が書かれたレジュメがよかった」、「レポートのフィードバックがあり、理解が深まった」、「中間テストが複数回あることで理解が深まった」、「これからの自分のためになる授業だった」など好評価の声が多数あった。一方で、「教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか」という設問については、全学平均を下回り、個別のコメントにおいても、教員の声の大きさや態度、講義の進行速度および難易度などに対する不満の声が一部みられたため、こういった声もしっかり検証し、授業改善へつなげていきたい。自由記述コメントの回答数は約 340 件と増加が見られ、多くの学生の声を集めることができた。教員から学生へのコメントやフィードバックをていねいにしていくことが臨まれる。 今年度より、設問項目を追加（設問 11 から 14）して、授業の難易度とその理由を尋ねた。「授業の難易度は適切でしたか」については、概ね適切・適切が 88%であった。難易度が適切でない・やや適切でないを選んだ人の理由は、レベルが高すぎる、範囲が広すぎる、情報が多すぎる、授業の進みが早すぎるであった。難易度の高いレベルを乗り越えるための工夫を学生がしていることも確認できたが、より理解しやすい授業に努めることが期待される。
【授業改善への活用方法】 授業アンケート結果については、学生から寄せられた自由記述コメントを含めて学部内で共有し、特に評価の高かった授業の取り組み事例（図表を用いた説明、小テストや演習の活用、Moodle 等を用いた学習支援など）について教員間で情報共有を行い、各授業の改善に活用する予定である。

2026年度前期授業アンケート報告書

薬学部

【実施期間】2026年 5 月 29 日～2026年 8 月6日

【実施科目数】172 科目

【回答率】24.9 %

【結果の概要・分析】

授業アンケートの回答率の向上を目指し、今年度は授業担当教員に対して授業時間内にアンケート回答時間を設けるよう、全学教育推進機構からの通知に加えて、教授会でも周知し、メールでの周知も行った。薬学部の 2026年度前期のアンケート回答率は 24.9%であり、前年度前期の回答率(28.6%)よりもやや低下したが、前年度に引き続いて前々年度(16.8%)までに比べて大きく改善されている。これは授業時間内にアンケート回答時間を設けるよう努めていることによるところが大きいと考えられる。しかし、未だ回答率が十分に高いとはいえないため、回答率の低い科目を調査するなど原因を検討し、改善を図りたい。また、別のアプローチによる改善策として、例えば、次学期のシラバス閲覧条件に現学期のアンケート回答を必須化する、といった、システムレベルで工夫を施すのも一案である。

アンケートの設問毎の平均値を全学の値と薬学部の値を比べると、設問 1(シラバスを読んだか)がマイナス 0.15 ポイントでやや低かった。薬学部の科目は大部分が必修あるいは選択必修であるため、他学部のように選択科目を選ぶうえでシラバスを確認するという必要性が薬学部では少ないという学部特性による可能性が考えられる。一方、設問 9(時間外学習を行ったか)についてはプラス 0.13 ポイントで全学平均よりも高値であった。これは学部の取り組みとして、授業毎にオンラインの課題を課すことを促していることによる可能性が考えられる。

他の設問はほぼ全学平均と同レベルであり、全体として薬学部の授業内容について、特段の問題点は抽出されなかった。薬学部独自の設問について、設問 11(授業の難易度は適切だったか)は概ね適切であったとの回答であったが、あまり適切ではなかったとの回答も一定数認められた。適切ではなかった場合の理由(設問 12)をみると、授業範囲が広すぎる、情報が多すぎるとの回答が多かった。これについては、学習すべき内容が薬学教育モデル・コア・カリキュラムに定められているため、内容そのものの改善は難しいが、学生の理解度に配慮し、十分な理解が得られるよう授業方法を工夫することが期待される。

【授業改善への活用方法】

薬学部では毎年度、各教員が担当科目の授業アンケートの結果や単位習得状況などを踏まえて自己点検・評価書(教員レベル)を作成し、その中で各教員が担当科目の振り返りを行い、必要に応じて改善策を検討・記載する仕組みを運用している。また、未だ運用が軌道に乗っていないが、各教員から提出された自己点検・評価書を薬学部内部質保証推進委員会において検証し、改善すべき点があれば各教員にフィードバックすることで、実効性のある自己点検・評価の仕組みとしている。

2026 年度前期授業アンケート報告書

共通教育センター／スポーツサイエンス・ユニット

【実施期間】2026 年 7 月 3 日～2026 年 8 月 6 日			
【実施科目数】共通教育 776科目／スポーツサイエンス・ユニット 13科目			
【回答率】共通教育 38.3％／スポーツサイエンス・ユニット 23.6％			
【結果の概要・分析】			
回答平均値			
設問	全学	共通教育	スポーツサイエンス
1	3.13	3.08	3.15
2	3.41	3.43	3.22
3	3.35	3.39	3.35
4	3.42	3.45	3.38
5	3.38	3.42	3.37
6	3.33	3.38	3.31
7	3.44	3.43	3.35
8	3.40	3.42	3.35
9	2.97	2.99	2.69
10	3.41	3.41	3.44
【共通教育】			
回答率は全学平均（32.35％）を上回っており、2025年度前期（38.0％）と同水準である。各設問の平均値が、ほぼ全学平均を上回るか同水準であることは、対象科目・履修延べ人数の多さを考えると、多くの非常勤講師を含む担当教員が授業に真摯に取り組んでいることを示唆している。 「設問1」（履修登録前にシラバスを読んだか）が平均を下回るのは、選択の余地のないリテラシー科目があることが要因と考えられる。また、「設問7」（新しい知見や考え方を知ることではできたか）がわずかに平均を下回るのは、特に1年次生の一部の学生にとってはリメディアル的要素を含む授業内容が既習事項であることが要因と思われる。これは初年次教育を担う共通教育科目の特性を反映しているといえる。			
【スポーツサイエンス・ユニット】			
回答率は全学平均を下回っており、2025年度前期（25.2％）よりも低下した。各設問の平均値も、多くは全学平均を下回る結果となった。ただし、「設問10」（将来授業が役に立つと感じたか）が平均を上回り、かつ、記述回答（9件）はすべてポジティブな内容だった。スポーツサイエンス・ユニットの特性として、実践的で「（比較的すぐに）役に立つ」と学生が感じられることが授業評価に反映しているものと思われる。			
【授業改善への活用方法】			
共通教育科目の自由記述回答2755件を生成 AI により横断的に見ると、どの科目群でも「わかりやすい説明」「ペアワーク・グループワーク」「小テストによる復習」「発音や実践練習」「質問しやすい雰囲気」「将来役立つ内容」が評価される授業の共通因子になっている。一方、改善要望として、「進度が速い」「説明不足」「高圧的な指導」「シラバスとの不一致」「テスト範			

囲や評価基準の不明確さ」が複数科目で共通して見られた。

この結果を共通教育センター内で共有し、グループワーク等、学生がポジティブにとらえる工夫を可能な範囲で取り入れる必要を確認した。また、改善要望にある説明の速度や方法について、教員側は当然、授業内容や必要な情報は周知徹底を図っているが、学生には教員が期待するほど伝わっていないというズレが生じているとも考えられ、より丁寧な説明が必要であることが指摘された。ひとつのアイデアとして、音声の文字起こしツール（Windows ライブキャプション等）を利用し、学生が教員の発言内容を視覚でも確認可能にする方法が示された。